

東京バッハ合唱団 月報

[第 620 号] 2014 年 2 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp <http://bachchor-tokyo.jp/>

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 620

February 2014

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

のらくろ・寅さん・相棒

— 私の冬休み —

大村 恵美子 (主宰者)

目下進行中の「バッハ4大作品連続演奏」のうち3曲(4公演)までがみな好評裡に終わり、さらに12月23日の荻窪教会《クリスマス・オラトリオ》特別演奏会も余裕のうちになし遂げて、やっと、例年うちの合唱団のカレンダーでは、1年で一番長い、冬休みに入った(夏休みのほうは、集中練習、合宿、海外巡演旅行などで、むしろ相当ハードなシーズンが多い)。

21世紀に入ってからというもの、冷戦が終わるかと思いきや、逆に世界はもっと熾烈な殺し合いの様相を呈して来ている。この時期を象徴すると感じられるのが、敵・味方を判じきれない恐怖にいら立つ「ハリー・ポッター」の世界中での風靡ではないだろうか。魔法学校生活の中で、魔法というものが、いかに恣意的・部分的な力しか持たないで、全能とは程遠いものかが描かれている。主人公ハリー・ポッター少年は、生後間もなく、両親を友人に殺されて、ひとり生き残って成長する日々は、彼を殺しそこなったその魔法使いの黒い強引な意志によって執拗につきまとわれ、狙われつづける。「大丈夫、校長の私と学校とが全力をあげて君を護り通すから」と励ましつづけてくれた校長も、敵側の攻撃で先じて殺されてしまうし、先生や仲間たちも、親しいかと信じかけるとパッと裏切り、じつは敵だったことがわかるとか、ひっきりなしに揺れうごきながらハリーに迫ってくる。魂の芯の奥深くをえぐるようなショックを、孤独に戦いながら、実際何度も死にかかりながら、自分を厳しく律して、かろうじて生き抜いていくハリー。

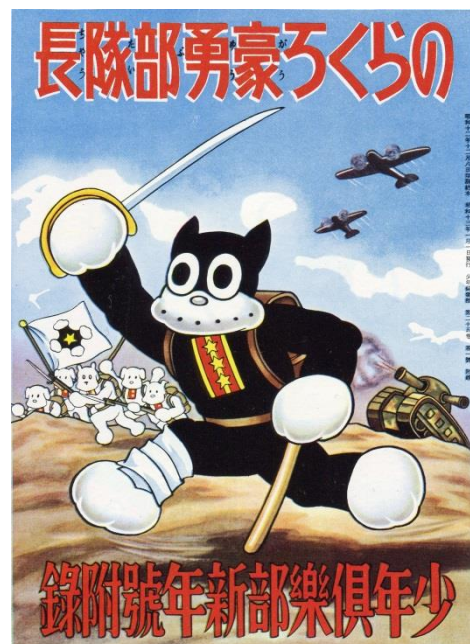
ここで私は、《ヨハネ受難曲》の冒頭大合唱曲が鳴りひびいてくるような気がする。空恐ろしく不吉な暗雲のたち込めるオーケストラの絶え間ない波動は、魔術学校の取り留めない雰囲気そのものだし、その不気味な闇の虚空にひとり生身をさらして立ち向かうのが、小柄なハリー少年。呑みこまれそうな中を“Herr, Herr, Herr! (主よ、主よ、主よ)”と健気に叫び求める存在である。(最近発行した小冊子『《ヨハネ受難曲》演奏と鑑賞の手引き』p.8「冒頭の大合唱」の記述も参照していただきたい。月報2013年5月号～8月号に連載したものを再編集し、2014年1月に発行。次回の定期演

奏会当日配布のプログラムに挿入の予定。)

* * *

ついで日本社会では、「シロウト人間」(猪瀬元東京都知事の会見)による偽リーダーたち——為政者、役人、警察、公安、司法、教育者、企業主、親たち等々——の広い層が、考え得る限りのスキャンダルを続出し、止まらなくなった。2013年度の10大ニュースの大部分が、自然災害と人間のモラルハザードで、唯一、楽天の野球優勝だけが、子どもにも伝えられる話題、という情けなさだ。

新しい政権からは、「悪者はやっつけろ!」という啖呵が、だんだん露骨になり、この年越しあたりにはかなりの緊張感に包まれた。こんな折も折、昨年から私たち合唱団の土曜練習場として提供していただいた荻窪教会は、有名な昭和きっての漫画家、田河水泡氏ゆかりの教会だったことで、私は練習最終日の備品整理中に、図書棚の中から、背表紙が7センチ位もある部厚い『のらくろ漫画全集』(全1巻)を見つけた。ページを繰ってみると、何と、「のらくろ」が世に出たのは、私の生まれた1931(昭和6)年とのこと。これはまさに、私たち一般民の戦争関与を証拠づける絶好の資料、



というふうにピンと来て、さっそくお借りして帰った。兄、姉のいた私のこども時代は、雑誌「小学1年生」～「小学6年生」と「少年倶楽部（クラブ）」を毎月待ちきれない思いで明け暮れたものだった。でも、昔なつかしいというより、むしろ愚かにも再び軍国時代にのめりこもうとする今のわが国に、「のらくろ」はどのような作用をもちえたのだろうか、というもっと切羽詰まった思いに駆られてのことである。

夜な夜な立ち向かった「のらくろ」との対決の結果は、こうである。21世紀の超最新兵器に守られたアメリカ兵たちも、イラク、アフガニスタン、パキスタンの修羅場から帰還すると、どっと精神異常をきたし、日常生活になめらかにランディングできない若者（中年も多いようだ）たちが続出しているという。戦場となるのを強いられた国々の住民たちは、全く論外な惨状だが、仕掛けたほうの正規軍の連中も、個々の自滅に追い込まれるのだ。だから、「任務は重し、生命は軽し」とはりきる猛犬連隊と、上意下達の徹底では変わることなく、ただ、後者が無知でのんき、人権（犬権？）尊重のモラル普及以前なのに比して、現代の、民主主義圏代表・世界の警察などと正義を自負するアメリカ人は、自己分裂に陥って病に苦しむことになるわけなのだ。

＜次回公演予告＞

第110回定期演奏会

《ヨハネ受難曲》

— 4 大合唱作品連続演奏 [5] (最終回) —

日時：3月15日（土）、13:30 開演

（開場 13:00、終了 16:15 予定）

会場：杉並公会堂（JR/地下鉄「荻窪」下車）

演奏：

鏡 貴之[エヴァンゲリスト/テノール]
渡邊 明[イエス/バス]、光野孝子[ソプラノ]
佐々木まり子[アルト]、鳥海 寮[テノール]
藪西正道[バス]、草間美也子[オルガン]
東京カンタータ室内管弦楽団[管弦楽]
東京バツハ合唱団[合唱]
大村恵美子[指揮/訳詞]

入場券発売中

前売り 3500 円（全席自由席）

お申込み

事務局まで（FAX、TEL、Mail、HP から）

いずれも月報タイトル囲み内参照

後援会のみなさま

今月号の月報に同封で、上記《ヨハネ受難曲》公演の「招待状」をお送りしました。50周年記念企画の最終回です。ご友人・知人お誘いのうえ、ぜひともご来聴いただけますよう、ご案内いたします。

「のらくろ」の世界は、この世に戦争のなくなる限り、終わらない。ただし、のらくろの兵営内での好き勝手さは、かつての「皇軍」では1日たりと許されなかったことだろう。のらくろがその中でドジ・無鉄砲と笑われ、人気者となっているのは、見ていて黙視しきれなかったとしても、さらに皇軍をおちょくことは断じて見過ごせないと、太平洋戦争突入前夜の1941（昭和16）年には、発行禁止となった。今でも、特に男性は、強さに憧れ、血がうずいて、たやすく「八紘一宇」「強い国」へとなびき、チャンバラごっこ、戦争ごっこにひかれるようだ。女性は、こどもを殺してはだめ、という一心で、ものごとを見きわめるほうが多いような気がする。これを達観したように「永久平和なんて、ありえませんか」とうそぶくのが、インテリまがいの臆病者のメルクマールになっている。

* * *

新年が明けてすぐ、『寅さんとイエス』（米田彰男著、筑摩選書、2011年刊）を、ひとが貸してくれた。この寅さんの映画も、第1作（1969年）から毎年、お盆・正月と2本ずつ加わりながら、渥美清他界の第48作まで、日本人の心をとらえつづけて来た。私も、旅行中の飛行機やバスの車内で、よく出逢ったものだった。2、3度は、時間つぶしのシネマ館内で、観客のなまの反応を体験したこともある。私自身の当初の気持ちは、下品、乱暴、コンプレクスのまんま……など、なるべく避けたい世界と感じられた。渥美の死で一挙に礼讃が広まり、さながら古典の位置づけでテレビでも連続番組で続けられるようになった。

そしてこの米田彰男氏（カトリック司祭、清泉女子大学教授）の著書に至っては、寅さんをイエス・キリストになぞらえて、評価が高い。「寅さんとイエスの両者に共通する逸脱は、他者を生かすための他者への思いやりであり、表層の嘘を暴き真相を露（あらわ）にする、いわば道化の姿である」（p.67）。これは、アベノミクスにむらがる連中には、反省材料になってほしいものだというのが、私の感想。つまり、小より大、弱より強、暗より明、貧より富、という根づよい価値観をくつつがえすが、イエスのほんとうの福音であることを、キリスト教信者ばかりでなく、人間みんなが思い返してほしい。

* * *

どんどん見ることの少なくなるテレビだが、時間帯の関係もあって、なるべく見たいと思っているのが、ドラマ「相棒」である。これも今やかなり大きな視聴率に達しているようだが、今後、多面的な発展可能性も蔵している感じもあり、私も全く気が許せるわけではない。ベタつかず、わりあい快テンポで、何よりも権力批判を隠さないところを買っていたのだが、昨年からななりゆきで、昔の「のらくろ」同様、どんなに人気番組でも、時の権力によって有無を言わせず息の根を止められることだって、大いにありうる状況が迫



荻窪教会での クリスマス演奏会

白井 昭子 (団員：アルト)

っている。一般人の間でも、ヒトラー、スターリンなどが、大ぴらに持ち上げられ出したそう。そんな傾向がますます常態化するかもしれない。

でも私は、「つまり人間は変わらないのよ」とうそぶく側には傾かない。けんかほしやないが、人間心理をよくよく学んで、なだめすかしてでも、「殺すな」を徹底させてゆく。のらくろにも、寅さんにも、都合によっては殺しても止むを得ん（「ぶっ殺してやるぞ！」）とは言わせない。（ちょっと自慢話になるが、町なかでのどが壊れそうに泣きわめく乳幼児を鎮めるのが、私は得意だ。）

* * *

さて、私の本職の抱負に戻ろう。日本の前途と同じく、今年うちの合唱団も、まさに正念場を迎えている。創立 50 周年記念演奏を、赤字加算をつづけながら実現してきた。スケジュールのハードさに脱落する団員もふえ、また加齢で健康低下、家族介護で外出不能などのマイナスも世間並みに押しよせている。サポーターとして貴重な後援会員方も、同様な状況から減少が目立ってきた。

このことを見越して「記念ファンド」の企画を始め（2011 年 1 月）、ありがたくも合唱団の大方の赤字補填にまず役立った。それが、演奏会運営として最大規模（通常経費の約 2 倍）である、昨年春の《マタイ受難曲》上演には、ファンド資金は惜しくも間に合わず、ここで大きな負債を上乗せしてしまった。しかし、目標額（500 万円）達成の締切りは今年（2014 年）の年末である [2014 年 1 月現在の達成額 2,920,000 円]。この年に逆転に成功して、いくばくかの予備金まで備えた、前向きの健全な運営体制をうちたてなければならない。団員増加のためにも、これは必須条件である。それで、私は正月早々から、活動 50 年の健闘のご褒美に 1 口 1 万円のご支援を寄せていただける方を求めて、「勧進帳」よろしく、領収書を持ち歩く決心をした。わが身を富ますのでなければ、何の恥ずかしいことがあるらう。

団員の皆様も、御支援のおねがい、定演入場券お求めのおねがいの際に、合唱団も自分自身も卑下してはならない。光をもたらすバッハの音楽を、世界中に充たしたいという率直な希望が、こどもの頃からのひとつだけの私の動機だったのだから、同志をたずねることに迷いがあるてはならない。さいわい、初練習から、団員の意気はすでに高い。

バッハ 4 大作品 [日本語] 連続演奏 ライフ録音

《クリスマス・オラトリオ》後半

[CD] 2 枚組 (頒価 2500 円、送料 80 円)

[DVD] (頒価 3000 円、送料 80 円)

[BRD] ブルーレイ盤 (頒価 3500 円、送料 80 円)

《クリスマス・オラトリオ》前半、《マタイ受難曲》

《ロ短調ミサ曲》各 [CD] 在庫あり。ご注文ください。

クリスマスイヴの前日、荻窪教会にて、12 月 7 日の定期演奏会で歌った「クリスマス・オラトリオ」の後半を歌う仲間に入れていただきました。会場には、明日がイヴ礼拝にもかかわらず、多くの方がいらして下さり感謝でした。

7 日のコンサートではプロの方々歌われたソロの部分も、今回はみんな団員が歌うということで、テノールの方々を初めソプラノ、ベースの人々も練習に励んでいました。皆さん本番ではとても上手に歌っていました。

アルトも 1 回ソロを歌う曲があったのですが、いまひとつきちんと歌えていなかった私は、12 月に入りなんだかだと忙しく過ごして練習を休みがちでいたので、不安の中に当日のリハーサルを迎えました。でも大村先生のご指導で〈ささげん ほめ歌を〉と歌い始めていく内に、御子のお生まれになった喜びが心にあふれ、素直な気持ちになって歌うことができました。

歌う前に、この会場での声の出し方、響かせ方、会衆の人たちに語り掛けるようにと、いろいろ頂いた注意を心に留めながら、また時には夢中になってしまったりしましたが、楽しく歌うことができ、本当に幸せなクリスマスの時を過ごさせていただきました。

この年も「マタイ受難曲」に始まり、カンタータの曲や「クリスマス・オラトリオ」と、たくさんのバッハの曲に出会って歌わせていただく事ができ、本当に恵まれた一年でした。有難うございました。

< 終了報告 >

「荻窪教会 クリスマス特別演奏会」

- ・日時：2013 年 12 月 23 日 (月/祝日)、13:30 開演
- ・会場：日本キリスト教団荻窪教会
- ・入場無料
- ・曲目：バッハ《クリスマス・オラトリオ》IV・V・VI より抜粋 (演奏楽曲 IV…36, 37, 38, 39, 40, 42, V…43, 44, 45, 46, 48, 50, 53, VI…54, 55, 58, 59, 60, 62, 63, 64)。開幕に、山本弘史作曲「サガノー詩編歌」143 番を 4 声部で合唱
- (山本氏は、当団バス団員。山形県東根市在住の医師、2013 年 3 月の《マタイ受難曲》公演に出演)
- ・演奏：金澤亜希子 (オルガン)、大村恵美子 (指揮)
- ・東京バッハ合唱団出演者：31 名
- ・演奏時間：正味 52 分、休憩なし、14:30 終了
- ・主催：荻窪教会、東京バッハ合唱団
- ・来場者：52 名



50周年企画終了後の活動方針

- 3.11 被災地を忘れない、巡演と協演
- 教会カンタータ日本語上演の継続

東京バッハ合唱団の活動は、昨年より、新たな50年のステージに足を踏み入れています。

今春3月15日の《ヨハネ受難曲》(第110回定期演奏会、杉並公会堂)をもって、2011年より実施してきた創立50周年記念企画・バッハ4大作品連続演奏(全5回)をすべて終了しますが、既にさまざまな箇所であつてきましたように、以降は、私どもの本来の歩みにもどって、ふたたび教会カンタータやモテット、小ミサ曲など、「小さな」作品の森の散策をつづけます。

また、このたびの50周年企画の準備にとりかかった矢先に、東日本の大地震と巨大津波と原発事故が起きたこと(2011年3月)の意味は重大です。大曲チクルスを終えようとする今、合唱団としても、ようやく被災地の方々との連帯に眼をむける時機を迎えます。

タイトな財務状況のなか、昨年秋から年明けにかけて、何度かの相談会を重ねながら、以下の企画をもって、新たな半世紀へのスタートをきることにしました。散策と巡演、ご同行いただければ幸いです。

●第110回定期演奏会《ヨハネ受難曲》(3月15日)にひきつづき、2つの春の企画

「合唱と聖書朗読による《ヨハネ受難曲》」
いずれも入場無料、オルガン・金澤亜希子、合唱・東京バッハ合唱団、福音書朗読・各教会員

○三崎町教会—四旬節特別演奏会

日時：3月29日(土)17:30開演
会場：日本キリスト教団 三崎町教会

○荻窪教会—棕櫚の主日特別演奏会

日時：4月13日(日)
会場：日本キリスト教団 荻窪教会

●3月以降の練習予定

110定期《ヨハネ受難曲》終了後は、上記の2教会での特別演奏会に備えながら、下記111定期の曲目の練習が始まります。

●8月中は夏季休暇

今年の夏の野尻湖コンサートと合宿はありません。来年夏に予定の「3.11被災地巡演プログラム」に備えて、貯金します!?

●第111回定期演奏会「バッハのクリスマス音楽の花束、コラールとカンタータ」(仮)

日時：12月13日(土)、19:00開演
会場：府中の森芸術劇場ウィーンホール
交通：京王線「東府中」駅(新宿駅から約25分)、

JR中央線「武蔵小金井」駅よりバスなど。

<曲目>

- ①カンタータ第36番《喜びのぼれいと高き星に》
- ②カンタータ第62番《いざ来たりませ世の救い主》
- ③カンタータ第97番《わがすべての業主に導かる》
- ④《マニフィカト》変ホ長調 BWV243a 挿入曲

<選曲とホールについて>

・ルター・コラールを基調とした待降節の名品2曲①②、代表的な全詩節コラール・カンタータ③、マリアの賛歌より4曲の挿入曲④、いずれも聞き覚えのある旋律に導かれた、クリスマスにふさわしい名品揃い。

・バッハ合唱音楽の基本的な素材が満載。新規の入団者に最適なプログラムとなりました。

・今回は、器楽編成の小規模なものを選曲しました。また、ややご不便の方もお有りでしょうが、会場費の手ごろなホールとさせて頂き、団員の負担額軽減を図ります。ご諒解くださいますようお願いいたします。

●3.11被災地巡演プログラム

<南相馬の現地合唱団と打ち合わせ>

去る1月24日、主宰者と団員3名(S荒井、T村山、T大村。折衝にあたったB加藤は体調不良で同行できず)は、津波と原発被害の福島県南相馬市に、来年の巡演プログラム案をもって伺いました。現地でも具体的な提案をもって待ち構えてくださいました。

出席は、同市文化振興事業団から3名、市民文化会館を拠点に活動する「ゆめはっと合唱団」(地元での受け皿を買って出てください)から団長、常任指揮者ほか5名。そしてこれらキーマンをわれわれと繋いでくださった、団友で詩人の若松丈太郎氏にもオブザーバーとして参加いただきました。

われわれのプログラム案と現地側の提案は、以下のような合意に向かっていきます(詳細は継続検討中)。

・来年8月末~9月初、現地で定期演奏会(もしくは定期演奏会並みの公演)を行う(候補曲下記)。

・「ゆめはっと合唱団」を中心とした現地の有志がわれわれの演奏に参加する。また地元の合唱団や小学生たちの合唱ステージも加わり、合同演奏会となる。

・受け入れ準備、チケット販売などは「ゆめはっと合唱団」が全面的に協力の意向。

<候補曲>

- ①カンタータ第14番《かたえに主いまさずば》
- ②カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》
- ③カンタータ第81番《主イエス眠り いかによきわが望み》、3曲とも「嵐を静める舟上のイエス」(マタイ8:23-27)を主題とする。
- ④モテット《イエス 喜び》(以上より削減あり)

[他に、岩手県大船渡市での可能性を検討中]

◆紙面の都合で、連載「バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧」⑪は、次号に繰り延べさせていただきます。